

計画の見直しについて

これまでの木津川上流域(上野地区)の計画

上野遊水地、川上ダム、岩倉峡開削、築堤及び河床掘削により治水安全度1/100を確保

淀川水系流域委員会 提言(030117版)

これまでの治水計画は、主として対象規模以下の洪水に対する水害の発生防止を目的としていたが、これからは「超過洪水・自然環境を考慮した治水」および「地域特性に応じた治水安全度の確保」に転換する必要がある。

木津川上流域(上野地区)の 河川整備計画の考え方

- 下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できない
- 狭窄部上流の既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消
- 破堤の危険性及び被害ポテンシャルを踏まえて順次堤防の応急的な堤防強化を実施

浸水対策の検討について

1) 対象洪水について

対象洪水は、木津川上流域(上野地区)で流出量の大きい4洪水と短時間に集中降雨のある1洪水の計5洪水とした

5洪水について

洪水名	総雨量 ¹⁾	流出計算値 ²⁾
昭和28年 13号台風	299mm	2986m ³ /s
昭和34年 15号台風	312mm	2454 m ³ /s
昭和36年 10月前線	293mm	2549 m ³ /s
昭和40年 24号台風	205mm	2123 m ³ /s
昭和57年 10号台風	319mm	2143 m ³ /s

1)実績雨量からティーセン法により算出した島ヶ原上流域の流域平均雨量です

2)島ヶ原地点の流出計算結果です

浸水対策の検討について

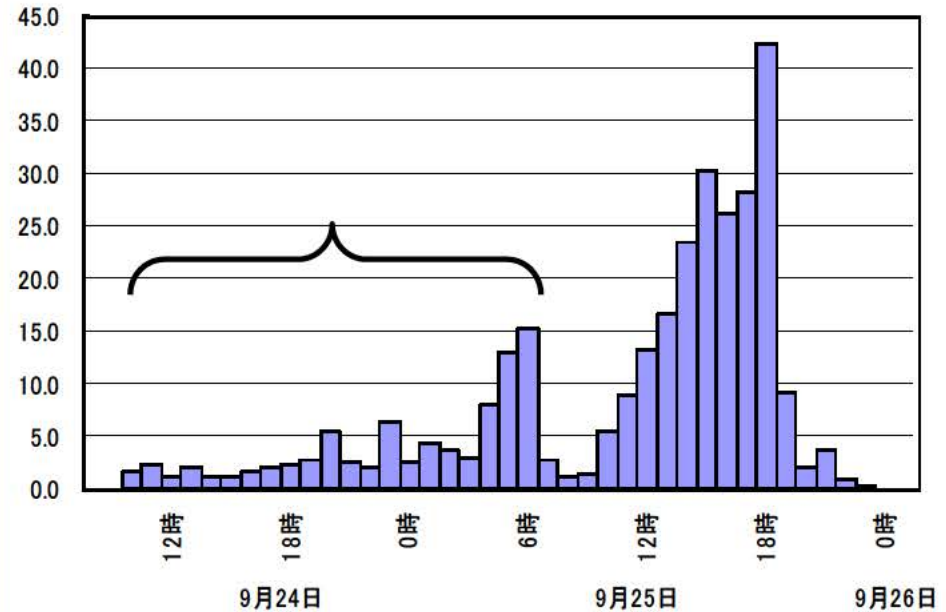
2) 降雨について

降雨の特徴について

A

過去最大の被害が出た降雨(総雨量299mm)で、前期降雨が継続し、その後時間雨量強度の強い降雨パターン

昭和28年13号台風(5313型洪水)



浸水対策の検討について

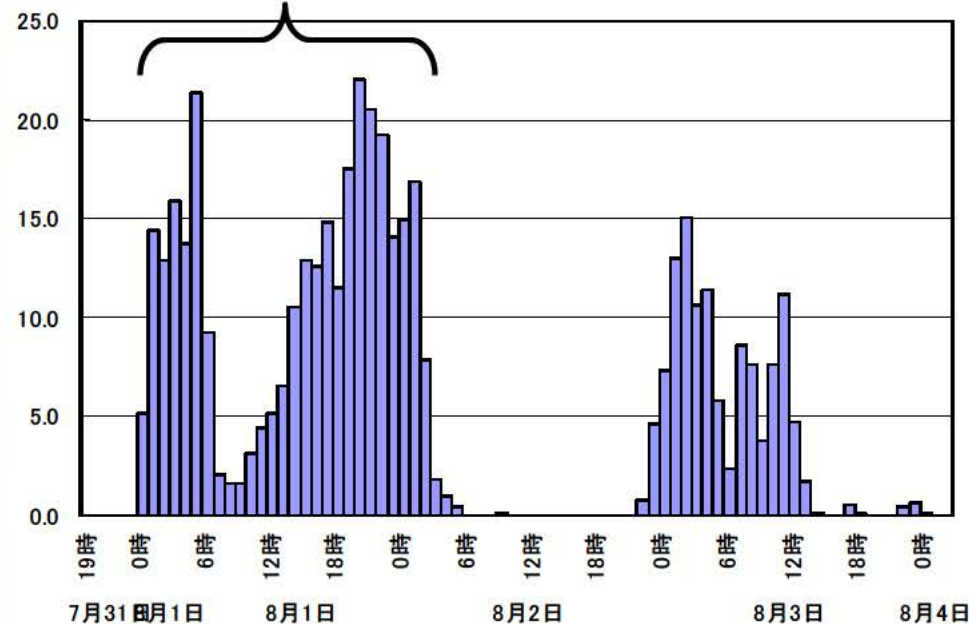
2) 降雨について

降雨の特徴について

B

総雨量が一番大きい降雨(総雨量319 mm)で、一連の降雨で2つの山をもつ降雨パターン

昭和57年10号台風(8210型洪水)



浸水対策の検討について

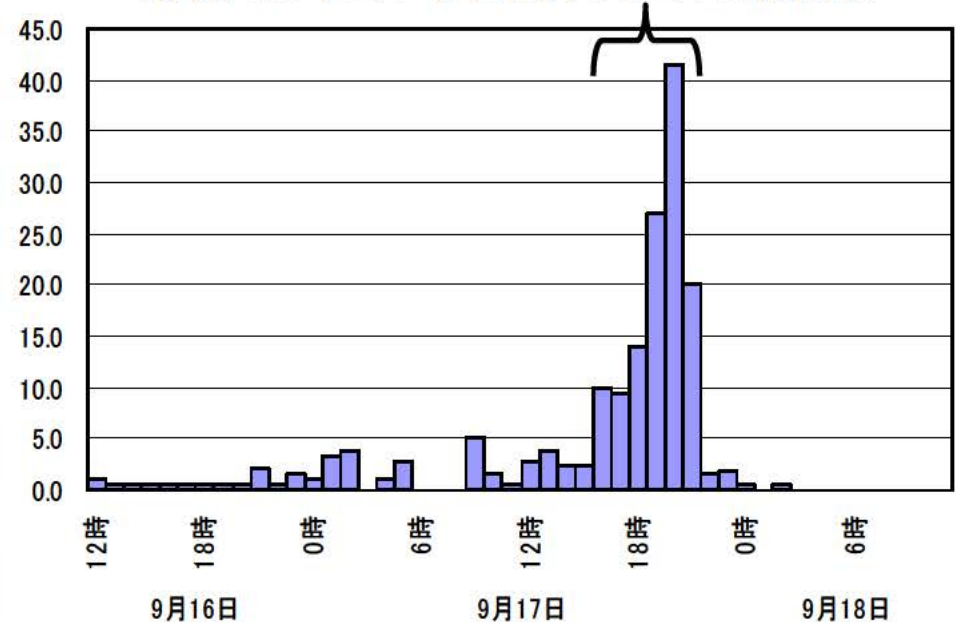
2) 降雨について

降雨の特徴について

C

降雨(総雨量205mm)の割には流出量が多く、前期降雨が継続し、短時間に集中降雨のある降雨パターン

昭和40年24号台風(6524型洪水)



浸水対策の検討について

3) 検討ケースについて

ケース①

5洪水(実績洪水)を昭和28年13号台風相当の雨量(総雨量299mm)が降ることを想定し、堤防の天端まで水位が達しても破堤しない場合

ケース②

5洪水(実績洪水)において、堤防の天端まで水位が達しても破堤しない場合

ケース③

5洪水(実績洪水)において、堤防の天端に水位が達するまでに破堤する場合

現在の技術水準ではスーパー堤防を実施しない限り、堤防強化を実施しても破堤の危険性はある。

浸水対策の検討について

4) 検討結果

○ 被害発生なし
× 被害発生あり

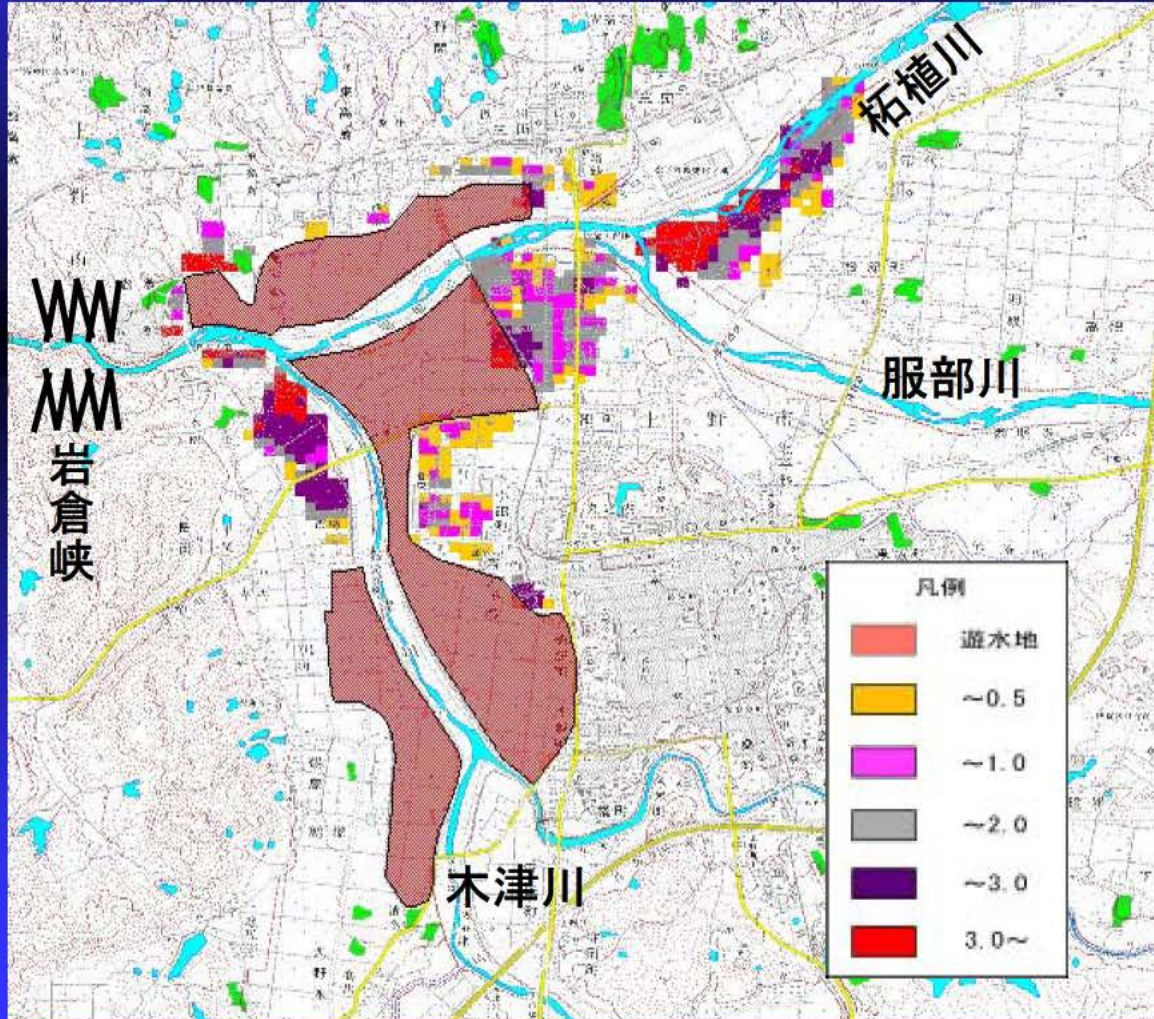
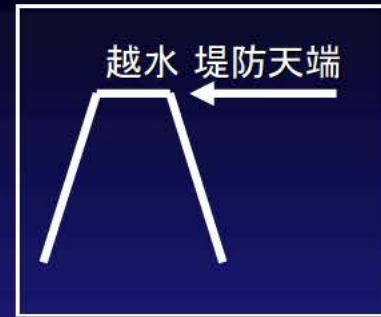
洪水名	昭和28年 13号台風	昭和34年 15号台風	昭和36年 10月前線	昭和40年 24号台風	昭和57年 10号台風
ケース①	○	○	○	×	○
ケース②	○	○	○	○	○
ケース③	×	○	○	○	○

浸水対策の検討について

5) 浸水図

ケース①

破堤条件



洪水名	昭和40年24号台風 (6524型)洪水
実績降雨	205mm
降雨波形	昭和28年13号台風 相当の雨量(総雨量 299mm)が降ること を想定した場合
堤防条件	完成堤
破堤条件	破堤なし・越水

浸水面積 184ha

平均浸水深 1.259m

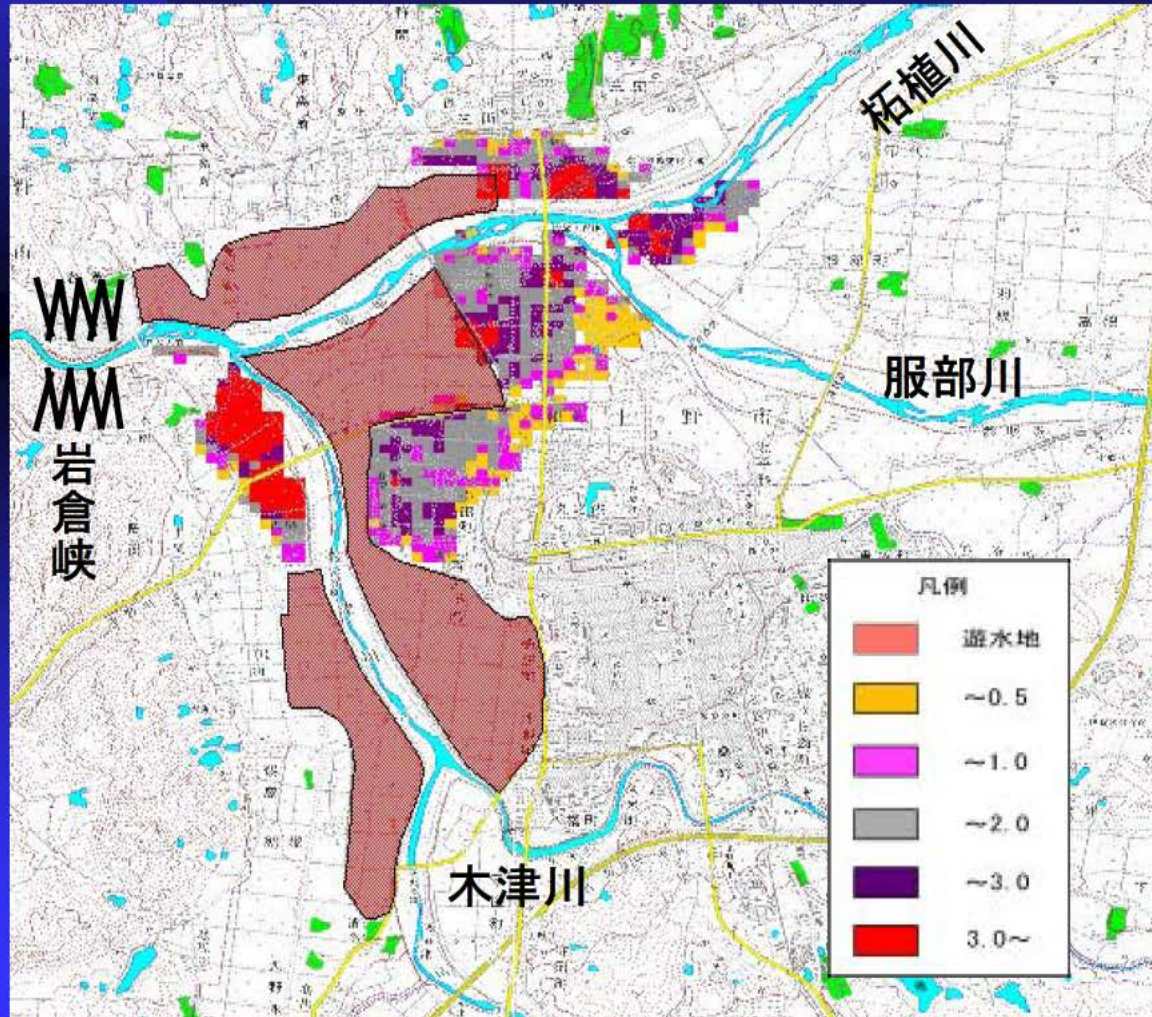
氾濫量 232(万m³)

浸水対策の検討について

5) 浸水図

ケース③

破堤条件



洪水名	昭和28年13号台風 (5313型)洪水
実績降雨	299mm
降雨波形	実績降雨
堤防条件	完成堤
破堤条件	順次破堤

浸水面積 206ha

平均浸水深 1.656m

氾濫量 342(万m³)

浸水対策の検討について

6) 浸水被害の総括表

昭和40年24号台風 (6524型洪水)	甚大な被害が発生 <ul style="list-style-type: none">・浸水面積 184ha・平均浸水深 1.259m
昭和28年13号台風 (5313型洪水)	甚大な被害が発生 <ul style="list-style-type: none">・浸水面積 206ha・平均浸水深 1.656m

浸水対策の検討について

7) 検討結果をふまえた整備内容

以上の結果から、既往最大規模の洪水に対し、上野遊水地が完成したとしても浸水被害が発生する

下流河川に流量増をもたらす施設整備（堤防嵩上げ）は行わない

従って、岩倉峡上流部で流域内貯留施設が必要となる

岩倉峡上流部の

貯留施設比較検討フロー

(前提条件)

- ・岩倉峡は開削しない
- ・上野遊水地完成

(浸水被害解消を
図る対象区域)

岩倉峡上流上野地区

(目 標)

既往最大規模洪水による
浸水被害の解消

考えるすべての案



詳細検討の対象案



最適案

考えうるすべての案

1) 河道で処理する案

- ・河道内貯留案

2) 河道以外で対応する案

- ・上野遊水地掘削拡大案
- ・遊水地新設案

依那古遊水地案、柘植川遊水地案

- ・水田畦嵩上げ案
- ・溜池掘削嵩上げ案
- ・耐水型街づくり案(ピロティ案)

3) 複合案

- ・上野遊水地掘削拡大案＋ピロティ案
- ・ピロティ案＋一部(大規模工場)輪中堤案

4) ダム案